電子複写不可

沖縄戦記

独立機関銃第四大隊

元独立機関銃第四大隊副官
元陸軍中尉 環 正次

昭和 年 月 日

複製史料

防衛研修所戦史室蔵

6400-C-21

沖縄 168

沖台 37.8.20 516

沖縄作戦概要

環　正　次

朝雲

(7)

沖縄作戦ノ概要

7. 太平洋作戦ノ経過ト本島作戦ノ推移 八原参謀談

1. マリアナ線ハ主陣地トシ本沖縄本島ハ予備陣地ナリキ
2. マリアナ線突破後(七月～十月)本島ハ「勝号作戦」(一号)ヲ採用セリ。而シテ帝国全力ヲ挙ゲテ決戦ヲ行フ。
3. 比島ヲ以テ主抵抗線トナシ沖縄本島ヲ予備陣地トナシ而シテ9D独歩大隊其ノ他ヲ抽出比島ニ送出セシム 而シテ大本営ハ沖縄本島ヲ放棄持久戦ニ移向ス。
国家総力ヲ挙ゲテ戦争ヲナスハ本国ニシテ沖縄ハ完全ナル前進陣地トナル。

4. 作戦計画ノ案

イ. 実際本島作戦ニ摘要セン案
ロ. 24Dヲ中頭ニ置キ中頭ヲ戦争ノ主体トシ島尻ヲ捨ツ。
ハ. 24Dヲハ中頭ソノ他ハ国頭ニ配備名護南西シテ戦争ヲナス。
ニ. 24Dハ中頭 62Dハ島尻ニ配備上陸当初攻撃ヲ破砕シテモ沖縄本島作戦部隊トシテ中心ヲ捨ツルニ忍ビズ。

(2)

ホ. 嘉手納海岸ニ上陸スレバ 62D ヲ以テ撃滅 ~~湊川正面~~

湊川海岸正面ハ一部(24D. 混4×B. A主力)

然レドモ湊川ニハ上陸セズ.

四月三日中央部ヨリ出撃スベキ半命令的指示

アリ. 之ニヨリテ四月八日軍全部ヲ以テ攻撃ヲ

執ルニ決ス.

攻撃部署

戸 → 62D 24D 4×B 陸戰隊

各兵團長参集シ命令下達セントスルモ大部ノ

大兵ヲ以テ攻撃スルニハ

1. 大兵ヲ以テ夜襲スルニハ一夜ニ部署スル

ヲ能ハズ

2. 完全ナル砲爆撃下ニ於テ戰斗行動スルハ

兵ノヲ以テ流血スル價値ナシ

以上ノ理由ヲ以テ全力ヲ以テスル攻勢ハ之ヲ

撤回ス.

2. 第三十二軍攻勢

四月八日決セラレタル攻勢ハ執ラザリシモ中央部

指針ハ嚴トシテ不動ニシテ之ヲ一度行ハンカ軍ノ

面目立タズ依ッテ四月十二日22ヶ時3/24ヒ

22:15/23 22ヒ 主力ヲ以テ北各高地線ニ向ヒ

夜襲奪回ヲ決行ス. 敵ニ相当損害ヲ與ヘ

タリト判断セラル

∴ 以後軍ハ持久戰ヲ續行スルニ決ス

朝雲

(3)

4. 第三十二軍ノ再度攻勢

四月十二日ノ攻勢ヲ以テシテハ、中央部ノ指針ニ対シ充分ナラズ、軍ハ再度攻撃ヲ敢ルニ決ス。

五月四日攻勢ヲトリ若シ不成功ナラバ8日以下玉砕ト決ス、然レドモ成功ノ公算大ナラズ。

先ヅ南上原ノ線ヲ取リ26IPハ8(R)卒先西海岸ニ逆上陸、23IPヲ以テ中城湾ニ上陸攻撃海軍陸戦隊四ヶ大隊ハ湊川ニ待期。

24D/24Dハ成功シ難ク、五月四日ニ到リ24Dハ南上原進出不可能ニナル傾向大トナリ、覆滅ノ公算又大トナル。依テ全般ノ戦況ニ基キ五月五日19戦略持久ニ帰ス。降リテ四月八日我ガ攻勢転移ニ策應セントスル我ガ船隊ハB1、C2、d8ヲ以テ本島西海岸ニ進出攻撃セントスルモ、九分西海岸100浬ノ沖ニテ沈没ス。此ノ時「大和」以下多数ヲ失ヒd2～3ノ残ズニ到ル。此ノ報ヲ受クル中前以テ第三十二軍司令部ハ成功覚束ナキヲ知リ、之ガ中止ヲ依頼シタルニ遂ニ実施シタルモノナリ。

五月四日我ガ航空軍ノ参加ハナク、途中多大ノ損害ヲ生ジタルナリ。軍ハ敵ノ我ガ後方地帯ニ上陸ノ算ナキヲ知リ、軍ハ主力ヲ以テ首里ノ線ニ進出セントス。此ノ時兵站関係ヲモ編成セリ。

(44).

5. 第三十二軍最後ノ決戰

五月中旬マデハ首里ヲ中心トスル後御陣地ト決戰
然レドモ首里ヲ中心トスル陣地ハ人員(四万)多ク
陣地ハ狹隘ニシテ完全砲爆撃ニヨリ全滅ヲ招来
ヲ以テ知念半島ニ下ルヲ可トス
五月二十四日兵團長ト議スル所アリ
62Dハ本土ヲ念半島ヘノ後退ハ絶体ニ反シ
24Dハ之ヲ可トス
44Bハ知念半島ヲ可トス. 然レドモ知念半島ハ軍
資源及弾薬ナシ.

配備狀況

24D　44Bs
62D

6. 米軍ノ作戰

1. 狀況判斷
敵ハ62D 24D 9D配備シアルモ9Dハ台湾
ハ比島ニ特出シ, ソノ欠ヲ補フベク本土ヨリ
師團增加シアリ. 二ヶ師團ハ主トシテ國頭地方ニ
備ン~~重点ヲ~~アリ. 中頭, 島尻一帶ニ配兵, 國頭
配兵シ重点ハ國頭ニ在ルナラント.
2. 攻勢部署
第二十四軍團ヲ以テ島尻, 海兵第三軍團ヲ以
國頭方面ニ上陸式敵ヲ計畫ニシテ蓋シ海兵

最強部隊ナリ.

3. 攻撃要領

マリン第三軍団ハ縦進突破ヲ主張.
第二十四軍団.第十軍団ハ蠶食的攻撃ヲ主張ス

4. 兵左武陣地攻撃ニ於ケル計画等ニ関論ハ、ニミツツ元帥ノ方針ハ新タニ島尻南部地区ニ上陸作戦ヲ行ヒ実施スルニ決ス. 然ルニ新上陸作戦ハ多大ナル損害ヲ招来スルヲ以テ且功勲戦局漸ク結末ニ近ズキ本国ノ輿論紛々トシテ一致セズ遂ニ決行ヲ中止スルニ決ス.
∴ 新タナル上陸ヲ実施セザリシハ大ナル戦術上ノ誤リナリ.

7. 成果ニ関スル観察

1. 我ガ戦争員ノ数

9万 { 作戦争員 5万
防衛中学生 4万 }
戦死者 6万5千

2. 敵方ノ損害

陸戦 { 戦死 1万
負傷 3万 } 計4万
海戦 { 戦死 5千
負傷 5千 } 計1万

朝雲

(6)

∴海上ノ戰果80%ハ
特攻ニヨル

3. 重巡破艦船ノ概表

重巡　30隻（B10隻 大中小A 10数隻）
重破　223隻

∴20%ハ機雷㊤及ビ
砲彈ニ依ルモノナリ

4. 戰ヲ持久日表

3ヶ月間

8. 他ノ作戰トノ比較

1. ~~他ノ作戰~~
比島ノ狀況

(イ) 日本軍ノ狀況

總兵力	4 5万
戰死者	4 1万
捕虜	1万
最後迄戰ヲセシモノ	3万

(ロ) 敵軍ノ戰死傷　5万5千

2. 硫黄島

日本軍ノ戰死傷	1万8千
敵軍 〃	1万2千

持久日表 { 10日間(組織的戰ヲ)
4週間 戰ヲ

朝雲

3. サイパン. テニアン. グアム

損害ノ比　5対3

持久日数　消耗的戰ナ. ノ週ニ失敗 半ヶ月

9. 天号作戰ヲ顧テ

1. 天号作戰ノ立案

イ. 南西諸島作戰

ロ. 台湾　〃

ハ. 香港. 広東作戰

ニ. 上海方面ニ対シ

以上ノ部隊ヲ誘導攻撃スル作戰

2. 神参謀特派ノ件

(軍航空参謀系満ヨリ奥船ニテ脱出)

日本本土ニ在ル都市防禦ニ当タリシ優秀戰ナ機約1000機存在シアリシヲ以テ都市ヲ犠牲ニシテ沖縄作戰ニ参可セシム可ク五月中旬神参謀ヲシテ大本営ニ派スル迄ニ具現セズ且ツ姫路ニ集結シアリシ58Dヲ以テ9Dノ欠ヲ補ハントスル旨電文アリシモ之亦至日取リ消サレタリ. 前進準備トハ大本営ヨリ命ナカリシモ暗示充分アリ. 大本営ハ台湾方面ヨリ一ヶ聯隊ヲ以テ沖縄ニ増兵スベク計画スル旨アリタルモ

基幾隆港ニ於テ乗船待期中遂ニ全解スルニ到ル

3. 戦果ヲ大ナラシメル得ルト判断セラルル事項

(イ.) 軍砲兵隊ハ弾薬ニ会戦分ノ準備シアリテ最後ニ於テハ欠乏ヲ告ゲ3会戦分ヲ如要トシタリ. 之ガタメ空輸及ビ潜艦輸送ヲ試ミタルモ成功セズ.

(ロ). 敵ノ攻勢ヲ目前ニ控ヘ陣地ヲ再編変換シタルハ最モ不利ナリ. 兵ハ全然知ラザル未知ノ土地ニ於テ戦ヒセザルベカラザル状態ニ到リタル事勢ナラズ. 大本営ニ於テ三回之ガ変ヲ命ズ. 之ニ伴ヒ部隊ハ七回之ヲ行ヒタリ.

(ハ). 第九師団, 迫ニテ大隊及砲運ヲ増加シアルベ. 敵ヲシテ更減出来ル事或ハ可能ナリ.

10. 敗戦ノ因何レニ在リシカ.

大東亜戦ノ敗ノ因ヲ近接的ニ云ハシムレバ「日本民族ノ不足」ナリト. 日本民族ハ一人ガ少クトモ生意気ニナリ過ギテ居タト. 特ニ指導者階級, 為政者ニ於テ然リ. 眞ニ刃ノ下ヲ潜ラズ. 世ノ荒波ヲ知ラズ「オ坊チャン」育ちテ国カト世界ヲ余リニモ知ラザリシニ在リ.

戦略上ノ敗因

大東亜戦ハ開戦ニ於テハ非常ナル速度ヲ以テ戦争ヲ実施シタルモ、マレー作戦後ノ大平洋作戦ハ常ニ準備ヲ徹底セザリシ且特ニ開戦ニ於テ絶ヘズ遅レ居リタリ。且我ガ航空兵力ノ米航空兵力ニ到底正敵スベカラザル国力ノ実状ヲ忘却シ専ラ航空ノ一元偏ノミニ傾キ之ガタメニ他ノ戦争準備遅レ現状ノ理想ト完全ナル一致ヲ生ジタルニアリ。

二、教訓

イ、東西古今ノ戦史ニ徴スルニ戦争力ノ比ノ如ニ於テ1ヲ以テ2ニ勝チタル例ハ多キモ戦争力ノ1対3以上ニ於テハ1ヲ以テ3ニ勝チタル例ナシ。沖縄作戦ヲ案スルニ敵ハ陸上兵力8ヶ師団艦隊ハ全太平洋艦隊ノ外、英仏蘭ヲ含ム航空兵力ハ全米ヲ以テシ戦争力ノ比ハ少ナクモ1対20以上ナリ。且航空兵力ハ0ト無限大ナル事ナカラズ。

ロ、如何ナル明瞭陣地ト雖モ予備陣地ナキトキハ(主トシテ火砲)損害大ニシテ戦争ハ長ク継続シ難シ。且明瞭陣地ニ於ケル戦争訓練及指揮ハ訓練シル可ラズ。

ハ、24Dハ正々堂々タル戦争ヲ以テ陣地戦ハ62Dニ対ス。一ニ訓練地ト富ニ配備ト一致シ

朝鮮軍

(10).

24D — 満洲……計0戦斗割減
62D — 支那.

ニ. ヤンキーハ日常生活ニ於テ及ビ自己ノ自覺ニ於テ行フ行動ハ非常優秀ナル所アルモ兵ノ強弱・軍ノ精強ハ日本ノ比ニアラズ.

ヘ. 日本人ハ何事ヲモ力ノ深ク見ルベキニシテ型式ニヨリテノミ見ルベカラズ

ホ. 麥良河列島ノ部隊ハ孤立的存在ニシテ之ヲ敵ガ攻撃セザルハ、我ガ大戰果ヲ壞シ、然ラザルハ之ヲ破碎スル拙者ノミナリ.

—•—

朝雲

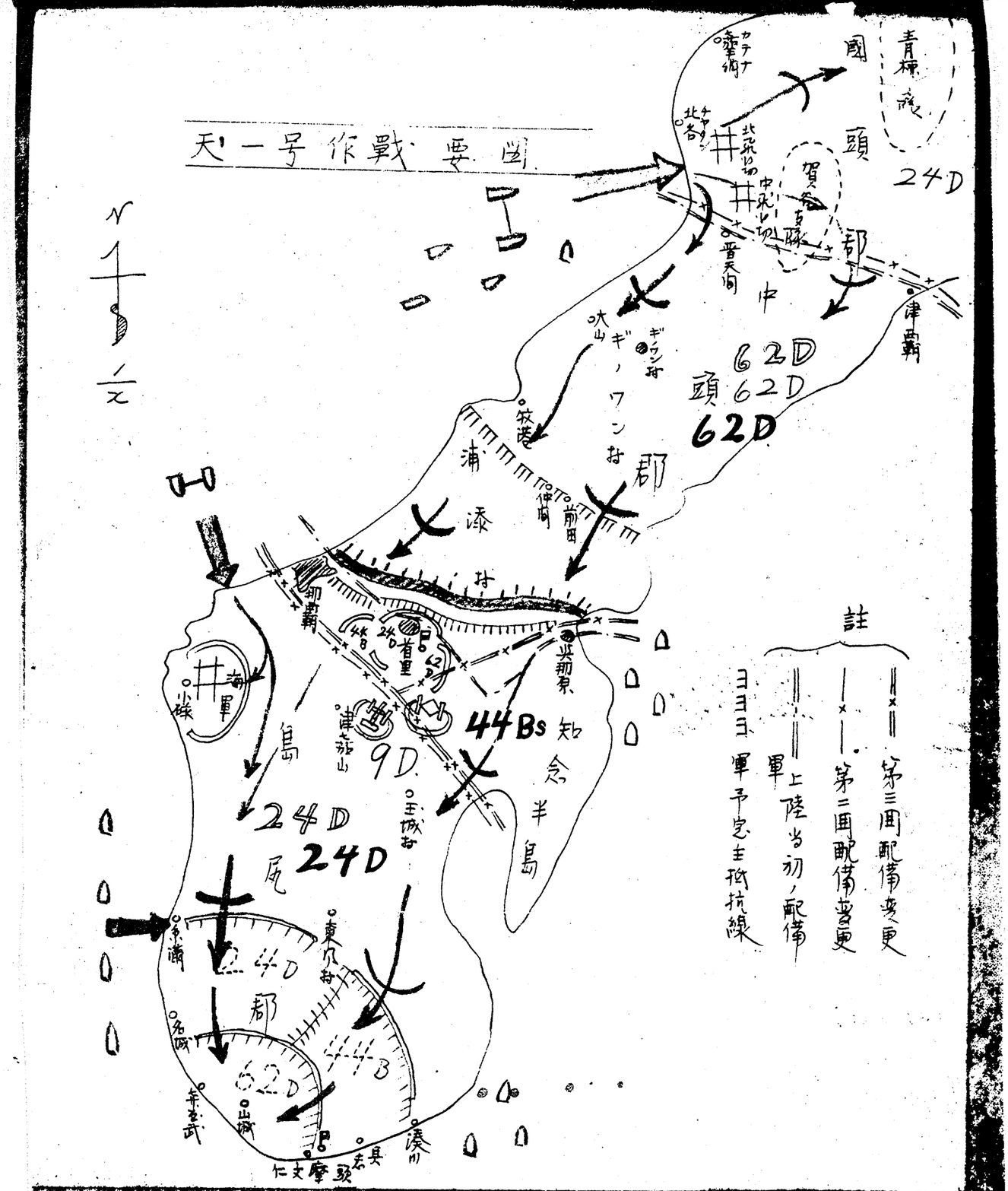
(11)

天一号作戦ノ概要

1. 軍隊区分
   32A 軍兵団 24D 15B
2. 軍ノ戦ヲ指導
   - 案 上陸セントテ之ヲ海上ニ駆逐ス
     (宮城 —— 津嘉山東方ニ予期ス)
   - 青柳支隊 1. 敵ガ北方ニ攻撃ヲトリ以誘導
     2. 南方ニ向ヘバ現位置ニテ出血ヲ強要
   - 青柳支隊ノ南方ニ於ケル索制攻撃ハ結局奏功セズ
   - 賀谷支隊ノ激烈戦斗ハ弱ク兵力劣勢ノ為持続セズ
   - 主抵抗線ニモ亦敵ハ我ガ配備ヲ知得シアラズ
   - 主抵抗線ニ於ケル戦斗ヲ62D 44Bハ移動セズ
     依然トシテ島尻方面ノ戦斗ヲ準備ス
   - 主抵抗線ノ戦斗ハ 24日ニ及ブ
   - 25/5ヲ期シテ南方行進
   - 持久ノタメニハ首里 復郷作戦ニ南方ノ方ガ可
   - 食糧 (一ヶ月)
     弾薬 A級 5基数
     海軍砲弾 (迫) 3基数 (首里方面ハ食糧一週間)
   - 行進
     石山部隊ノ一部
     44B 先ヅ元位置ニ行進ス
   - 行進後 敵ノ主攻方向ハ右翼方面
     44Bハ荒城ニ残リ包囲ヲ受ケ 62Dノ一部ニ達ス
   - 5基数 3基数ノ弾薬ハ敵B.Cノ砲撃ニ
     逢ヒ 1日100発ヲ出デズ (昼間射撃ハ
     不能ニシテ夜間黎明時ノミ射撃セリ)

(続ク)

天一号作戰要図


N
1/2
青標高
國頭
24D
賀谷支隊
中
郡
津覇
62D
頭
62D
62D
ギノワン岳
ギノワン
大山
牧港
浦添
郡
伊祖
前田
那覇
首里
浦添山
44Bs
知念
半島
9D
玉城
24D
24D
尻
東風平
糸満
名城
62D
44B
山城
糸数
具志頭
仁王
摩文仁
註
第三回配備変更
第二回配備変更
上陸当初ノ配備
軍予定主抵抗線

調査

獨立機関銃第四大隊略歴

一、動員

昭和十九年六月十九日陸亜密第一八九号ニ依リ動員下令、
今年六月二十三日動員完結ス、

一、編成要領　九月末

中部軍管区内ニ於テ当時ノ中部三七部隊、奈良、津、敦賀
聯隊及名古屋師団阜岐聯隊ノ各補充隊ヨリ推薦現職中
隊長以下幹部兵ニ至ル迄機関銃特業者ヲ選抜シ、中隊ノ
團結ノ保持ノ使、軍屋シ来ルモノニシテ、従来ノ動員ニ見ルガ如
キ臨時召集者等ノ集合部隊トハ趣旨ヲ異ニシ、当時ノ最

新鋭優秀部隊トシテ一般ニ期待サルル大ナリキ

陸ニテ各補充隊ハ之ガ為、建制及ビ教育ニ多大ノ犠牲ヲ拂ッテ此ノ部隊ノ編成ヲナスベキ通達アリタルガ如シ。

編成場所 京都市伏見区 中部三七部隊（歩兵第一二八聯隊補充隊）

一、編成区分及定員

定員 三三四名

本部 一〇名

第一中隊 一〇八名 MG 八

第二中隊 一〇八名 MG 八

第三中隊 一〇八名 MG 八

一、編成

本部

大隊長　陸軍少佐　陶山勝章

副官　〃　中尉　環正次

主計　主計大尉　中西清

軍醫　軍醫中尉　内田壯太郎

書記　曹長　稲垣石郎

軍曹　各口俊雄

〃　児島三郎

兵技曹長　田中数二

軍曹　井上貞一

軍曹　宮川音一

第一中隊　一〇八名

中隊長　中尉　大町治平

小隊長　中尉　畑中末吉　外二四名

2　〃　中尉　弁多弘　外二四名

3　〃　少尉　宮川季治　外二四名

4　〃　少尉　辻　栄　外二四名

指揮班長　准尉　杉林宗一　外六名

第二中隊　一〇八名

中隊長　中尉　杉尾俊二

指揮班長　准尉　中野長花　外六名

小隊長　中尉　羽田忠雄　外二四名

2　〃　少尉　藤田二郎　外二四名

3. 小隊長	少尉	吉川密雄 外二四九
〃	〃	中島孟一郎 外二四九

第三中隊 一〇八九

中隊長	中尉	小川勇
指揮班長	曹長	野澤英雄 外六九
1. 中隊長	中尉	棚瀬達一 外二四九
2. 〃	〃	河合元治郎 外二四九
3. 〃	〃	平松則武 外二四九
4. 〃	〃	市橋毅 外二四九

帝國在郷軍人會臣憲分會

一、待命期間

自六月二十二日 至九月十二日

京都伏見ニ於テ廠営ニ、約三ヶ月半、島司防衛ニ関スル

凡ユル演習訓練ヲ実施シ、大隊長以下團結ノ保持ニ

留意シ、概ネ固成セリ。

兵、健康状態ハ良好ニシテ、廠営内、環境ニ恵マレテ

疾患者ノ発生ナク、全員志気旺盛ナリ。

一、出発

昭和十九年九月十二日 七宮出発

仝 九月十三日 鹿児島着

仝 九月二十四日 鹿児島港出発

仝 九月二十九日 沖縄本島那覇上陸

戰史概況概要

獨立機関銃第四大隊

一、戰史前ノ狀況（別紙一）

昭和十九年九月二十九日 沖縄本島ヘ上陸スルヤ、第三十二軍 隷下ニ入ルト共ニ主力（本部、一、三中隊）ハ第六十二師團（石部隊）ヘ、第三中隊ハ獨立混成第四十四旅團ニ配屬サル、

昭和十九年十月一日ヨリ昭和二十年三月三十日 敵上陸前日ニ至ル間、（主力ハ中頭地方ニ於テ第三中隊ハ伊江島ニ於テ夫々陣地構築ヲ実施シ敵上陸迄ニハ陣地構築完成シアリタリ、

帝國在郷軍人會風憲分會

200名/4MGBm.
大隊本部/4MGBm
水源地(湧水)
発電所
① 畑中小隊 4門/100
② 辻 3門/100
③ 中隊長
喜多小隊 1門/100
宿川小隊 2門/200
④ 吉川小隊
⑤ 藤田小隊
⑥ 中島小隊 4門/200 一部初陣地の予定
⑦ 中隊長/200
柳田小隊

イ、陣地配備状況（附図二）

主力、第一中隊ハ石部隊左第一線ニ第六十三旅団第十三大隊戰十三面ニ、第二中隊ハ第一中隊ニ連繋シ右第一線ニ百十四大隊戰十正面ニ夫々次線構成シ得ル如ク陣地配備ス

第三中隊ハ、田辺島飛行場警備部隊トシテ当時、猛烈四十四旅団ヲ以テ大隊ニ配属サレ、飛行場東方二位置シ直ニ敵ヲ撃滅スル態勢ニ陣地ヲ構築シアリタリ。

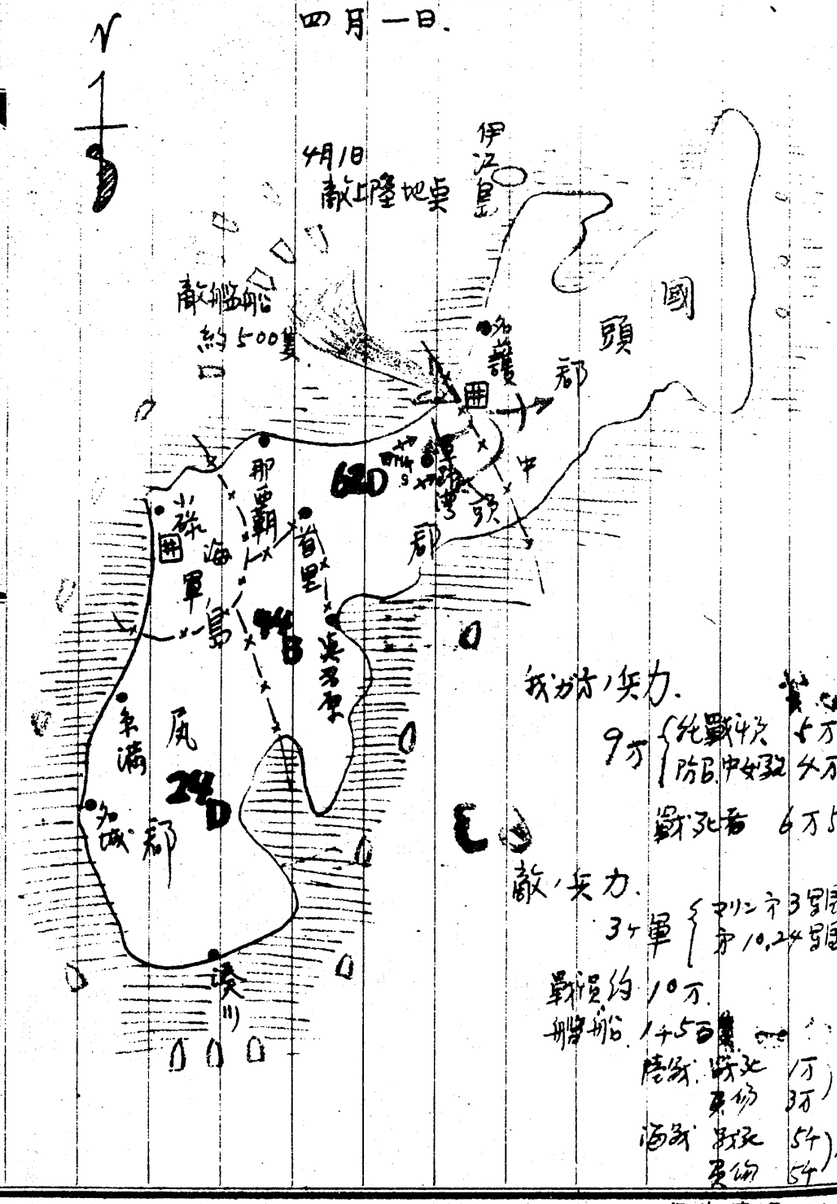
ロ、連日陣地構築ニ作業ヲ、演習訓練ハ精神的ニ、心身ヲ鍛錬シ、戦闘ニ備ヘ、服装ヲ完成ニ務メタリ。

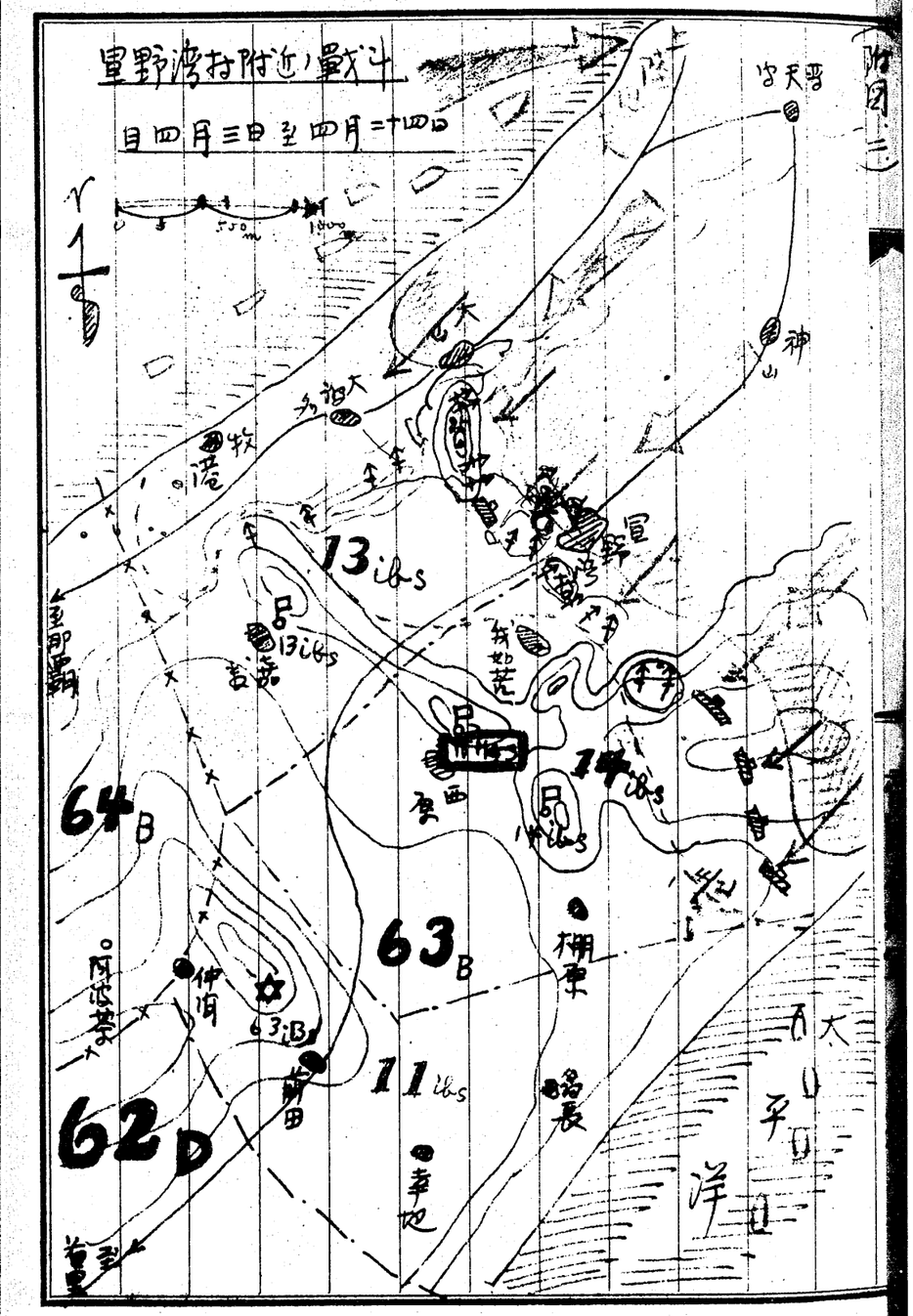
大隊、内地出発当時ニ於ケル各中隊ヨリ一名ヲ出シタルノミニシテ全員志気、体力、極メテ旺盛ナリ。

附図一、

沖縄本島敵上陸當初第三十二軍配備要図

四月一日




附図(二)
里野湾ヨリ附近ノ戰斗
自四月三日至四月二十四日
天
祖大
牧港
宜野湾
有如花
13 ibs
13 ibs
14 ibs
11 ibs
64 B
63 B
63 B
62 D
仲宗根
棚原
長嶺
幸地
大平洋

一、自四月一日
至四月二十四日　中頭郡宣野湾村附近ノ戰斗

四月一日午前八時敵ハ空爆艦砲射撃ノ掩護ノ下ニ北谷（チャタン）中飛行場附近及嘉手納附近ヨリ上陸ヲ開始シ所在部隊ト戰斗ヲ開始セリ。音ガ陣地ヨリ指呼ノ間ニ上ノ状況見ユ

四月二日、逐次南下セル敵ハ宣野湾村ニ侵入シ未ダ部隊ノ中間ニ第二中隊其ニ戰ヒ開始セリ。

交戰第一日ヨリ戰況一変スル狀態ニ入リ、敵ハ凡ユル火砲ノ集中火ヲ流セ我ガ方損害續出セルモ陣地ヲ固守シ敵ニ多大ノ損害ヲ與ヘタリ。此ノ戰斗ニ依リ

四月中旬迄ニ敵一ヶ師団ノ戰斗不能ニ陥ラシメ遂ニ敵

新鋭部隊タル海兵（マリン）師団ト更代スルノ止ムナキニ至リタル
事実アリ。
四月下旬、敵ノ攻撃愈々猛烈ヲ極メ、遂ニ全員玉砕ヲ
覚悟セシモ、四月二十四日夜半ヲ期シテ師団ノ新防衛線ニ
撤退スベキ命令アリタル為、各中隊、各部残存兵力ハ
夫々敵ノ包囲ヲ脱出シ、浦添村前田仲間附近ニ集結
諾ス。
此ノ間ノ戦斗状況モ上聞ニ達シ、四月二十日部隊ハ感状ヲ授与セラレタリ。
尚第六十二師団長ヨリ賞詞ヲ受賞セルモノ左ノ如シ。
杉尾隊古川小隊。
杉尾隊中島小隊。
大町隊弁多小隊。

功績

感状

獨立機關銃第四大隊

昭和二十年四月二十日　受領ス

帝國在郷軍人會氣志分會

賞詞　獨立機関銃第四大隊

松尾隊　吉川小隊

松尾隊　中島小隊

大町隊　喜多小隊

右第六十二師團長ヨリ受領ス

昭和二十年四月二十日

帝國在郷軍人會眞意分會